

# 畜産みやぎ

発行所  
 仙台市青葉区上杉一丁目16番3号J Aビル別館3F  
 宮城県畜産協会  
 電話 022 - 723 - 0733

編集発行人  
 大堀 哲

印刷所  
 ㈱東北プリント



第53回東北鞍馬競技大会 (H15.4.27)

## も く じ

C O N T E N T S

平成 14 年度子牛市場動向と今後の市場体制 ..... 2	平成 14 年度生乳需給状況及び 平成 15 年度生乳需給計画について ..... 8
平成 14 年度の枝肉市場成績 ..... 3	畜試便り 牛・乳房炎治療薬の開発 ..... 9
丸森町町営放牧場の概況 ..... 4	衛生便り 牛や白鳥の鉛中毒 ..... 10
24ヶ月齢以上の死亡牛検査が始まりました！ ..... 5	New face ..... 10
平成 14 年度家畜共済事業実績について ..... 6	

みやぎの  
 畜産情報  
 発信基地

宮城県畜産協会ホームページ

U R L <http://miyagi.lin.go.jp>  
 Eメール [mygchiku@mwnet.or.jp](mailto:mygchiku@mwnet.or.jp)

# 平成 14 年度子牛市場動向と今後の市場体制

全農みやぎ県本部

みやぎ総合家畜市場平成 14 年度の子牛市場取引頭数は、20,003 頭と平成 11 年度みやぎ総合家畜市場開設初年度以来の 20,000 頭台への回復を見ることができました。又取引価格についても特に下期が堅調に推移し B S E の発生した一昨年と比較すると 42,698 円高の 391,769 円となりました。

さらに取引状況をみると、県外流出頭数の 55 % が山形県となっており安定的な購買実績となっております。しかしながら近年の状況をみると全県外流出頭数はやや減少の傾向にあります。

## < 子牛市場県外流出頭数 >

11 年度		12 年度		13 年度		14 年度	
1	山形県 4,407	1	山形県 4,166	1	山形県 4,123	1	山形県 4,196
2	徳島県 580	2	栃木県 548	2	佐賀県 491	2	栃木県 654
3	茨城県 395	3	三重県 446	3	群馬県 306	3	佐賀県 445
4	栃木県 392	4	岐阜県 377	4	愛知県 300	4	岐阜県 342
5	千葉県 371	5	千葉県 373	5	岐阜県 299	5	静岡県 287
6	福島県 302	6	静岡県 358	6	千葉県 269	6	千葉県 264
7	長野県 272	7	徳島県 351	7	静岡県 264	7	群馬県 254
8	三重県 249	8	茨城県 315	8	栃木県 256	8	奈良県 245
9	新潟県 222	9	新潟県 243	9	徳島県 213	9	徳島県 166
10	岐阜県 200	10	福島県 218	10	三重県 148	10	茨城県 154
	県外合計 8,477		県外合計 8,458		県外合計 7,528		県外合計 7,588
	県外比率 41.5%		県外比率 42.5%		県外比率 38.6%		県外比率 37.9%
年間取引頭数 20,407		年間取引頭数 19,910		年間取引頭数 19,494		年間取引頭数 20,003	

このような現状を踏まえて平成 15 年度の市場体制として上場牛の尚一層の斉一性を図るとともに生産基盤対策を最重点に掲げ、さらに安定的な取引価格の形成がなされるよう購買者の誘致に努めます。

( 家畜市場課長 菅原 勝則 )



# 仙台中央卸売市場食肉市場における平成14年度の 肉牛取扱頭数と卸売価格の動向について

## 仙台中央食肉卸売市場1

平成14年度仙台市中央卸売市場食肉市場における肉牛取扱頭数は、26,772頭(前年比101.5%、403頭増)となりました。品種別の内訳は、和牛14,872頭(同94.6%、853頭減) 交雑種9,545頭(同121.4%、1,685頭増) 乳牛2,355頭(同84.7%、427頭減)の実績で、交雑種は大幅な増加となりましたが、和牛及び乳牛では減少となりました。特に乳牛の減少は一昨年のBSE発生以来、高齢牛の出荷自粛をお願いし、平成14年度も引き続き実施された影響によるところが大であります。なお、本年4月より一部条件はあるものの受入れを再開しております。月別の動向をみると4月には前年末の出荷滞留牛の出荷の影響がみられ、卸売価格の早期回復にあわせ、11月までの出荷には早出し傾向が窺われました。相場に一服感が出た12月、特に1月以降では、出荷適齢牛の減少がみられました。

<平成14年度 月別、品種、性別販売頭数調べ>

			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
和牛	H13	雄	1	2	3	0	0	1	0	0	6	0	1	0	14
		雌	964	817	749	877	809	701	141	286	569	505	574	891	7,883
		去勢	758	565	538	649	519	422	118	424	940	632	548	680	6,793
		小計	1,723	1,384	1,290	1,526	1,328	1,124	259	710	1,515	1,137	1,123	1,571	14,690
	H14	雄	1	0	1	2	0	0	0	2	2	1	2	1	12
		雌	837	669	449	624	571	676	736	851	739	428	675	503	7,758
去勢		554	410	402	583	452	466	474	854	1,096	622	472	398	6,483	
	小計	1,392	1,079	852	1,209	1,023	1,142	1,210	1,707	1,837	751	1,148	902	14,253	
交雑種	H13	雄	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		雌	269	224	225	245	294	198	53	203	329	577	532	654	3,803
		去勢	294	209	217	309	284	223	92	148	522	547	512	494	3,851
		小計	563	433	442	554	578	421	145	351	851	1,124	1,044	1,148	7,654
	H14	雄	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
		雌	648	420	359	509	547	399	460	510	399	329	445	281	5,306
去勢		421	388	286	426	394	341	373	405	305	221	265	287	4,112	
	小計	1,069	808	645	935	941	741	833	915	704	550	710	568	9,419	
乳牛	H13	雄	1	0	1	0	1	0	0	0	1	0	0	0	4
		雌	284	297	255	270	224	207	12	9	20	42	33	36	1,689
		去勢	18	69	31	25	63	43	22	0	18	54	170	150	663
		小計	303	366	287	295	288	250	34	9	39	96	203	186	2,356
	H14	雄	0	0	0	0	0	0	0	3	1	1	0	0	5
		雌	46	47	23	47	85	54	47	81	34	16	40	37	557
去勢		228	234	115	152	195	143	148	132	124	56	76	65	1,668	
	小計	274	281	138	199	280	197	195	216	159	73	116	102	2,230	
その他	H13	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2	
	H14	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
セリ合計	H13	2,590	2,183	2,019	2,375	2,195	1,795	438	1,070	2,405	2,357	2,370	2,307	2,905	24,702
	H14	2,735	2,168	1,635	2,343	2,244	2,080	2,238	2,838	2,700	1,374	1,975	1,572	25,902	
	増減	(H14 - H13)	-145	-15	-384	-32	-49	285	1,768	-295	-983	-395	-1,333	-1,200	
	前年比	(H14/H13)	105.6%	99.3%	81.0%	98.7%	102.2%	115.9%	511.0%	265.2%	112.3%	58.3%	83.3%	54.1%	104.9%
	和牛	H13	174	120	139	174	89	29	7	10	60	60	92	81	1,035
H14	63	60	91	116	20	46	57	65	66	12	18	5	619		
交雑種	H13	0	27	12	25	20	15	1	2	20	46	23	15	206	
H14	6	0	2	8	13	15	29	5	34	1	5	8	126		
乳牛	H13	95	50	32	81	34	26	13	7	0	45	43	0	426	
H14	0	2	40	55	7	0	0	12	0	0	9	0	125		
相対合計	H13	269	197	183	280	143	70	21	19	80	151	158	96	1,667	
H14	69	62	133	179	40	61	86	82	100	13	32	13	870		
増減	(H14 - H13)	-200	-135	-50	-101	-103	-9	65	63	20	-138	-126	-83	-797	
前年比	(H14/H13)	25.7%	31.5%	72.7%	63.9%	28.0%	87.1%	409.5%	431.6%	125.0%	8.6%	20.3%	13.5%	52.2%	
総合計	H13	2,659	2,380	2,202	2,655	2,338	1,865	459	1,089	2,485	2,508	2,528	3,001	26,369	
H14	2,804	2,230	1,768	2,522	2,284	2,141	2,324	2,920	2,800	1,387	2,007	1,585	26,772		
増減	(H14 - H13)	-55	-150	-434	-133	-54	276	1,865	1,831	315	-1,121	-521	-1,416	403	
前年比	(H14/H13)	98.1%	93.7%	80.3%	95.0%	97.7%	114.8%	506.3%	268.1%	112.7%	55.3%	79.4%	52.8%	101.5%	

卸売価格は、年度の平均では和牛去勢がA5：2,247円(前年比138円高) A4：1,803円(同217円高) A3：1,608円(同381円高) 交雑種去勢がB4：1,233円(同130円高) B3：1,038円(同262円高) B2：873円(同321円高) 乳牛去勢がB3：562円(同12円高) B2：487円(同173円高)となり、全てにおいて前年を大きく上回りました。卸売価格は前年度調整保管も実施されましたが2~3月にかけて底値となり、4月以降予想を超えた回復ぶりをみせ、10~11月には、BSE発生前の水準、特に和牛3等級はBSE発生前の水準を上回る高値展開となりました。その後その反動もみられましたが、出荷適齢牛の減少により、御売価格は高値水準で推移しました。今後とも計画的安定出荷にご協力のほどお願い申し上げます。

<平成14年度 月別・品種別卸売価格の推移(税込取極除く)>

			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	
和牛・去勢	A5	H13	2,352	2,369	2,325	2,417	2,367	2,287	2,320	2,307	2,064	1,948	1,876	1,884	1,744	2,109
		H14	2,032	2,041	1,964	2,155	2,094	2,107	2,320	2,443	2,333	2,291	2,382	2,291	2,312	2,247
		増減	-320	-328	-361	-262	-273	-180	-13	379	385	415	498	568	138	
	A4	H13	1,835	1,846	1,855	1,886	1,880	1,760	1,684	1,576	1,415	1,355	1,239	1,180	1,180	1,586
		H14	1,508	1,611	1,480	1,688	1,718	1,737	1,845	2,023	1,889	1,915	1,962	1,915	1,803	
		増減	-327	-235	-375	-198	-162	-23	161	447	474	560	723	735	217	
	A3	H13	1,509	1,494	1,492	1,565	1,471	1,443	1,531	1,199	962	970	909	1,016	1,227	
		H14	1,325	1,378	1,249	1,471	1,585	1,581	1,695	1,891	1,670	1,615	1,798	1,747	1,608	
		増減	-184	-116	-243	-94	114	138	164	692	708	645	889	731	381	
	交雑・去勢	B4	H13	1,489	1,494	1,376	1,492	1,503	1,410	1,183	1,106	939	880	594	523	1,103
			H14	867	890	854	948	1,277	1,332	1,414	1,518	1,475	1,148	1,503	1,459	1,233
			増減	-622	-604	-522	-544	-226	-78	231	412	536	268	909	936	130
B3		H13	1,276	1,284	1,241	1,267	1,261	1,200	910	749	563	525	442	394	776	
		H14	677	748	675	787	1,104	1,147	1,274	1,353	1,133	990	1,233	1,201	1,038	
		増減	-599	-536	-566	-480	-157	-53	364	604	465	791	807	262		
B2	H13	1,057	1,049	992	1,021	1,052	997	887	854	333	398	313	244	552		
	H14	534	637	507	629	945	975	1,129	1,169	783	874	948	890	873		
	増減	-523	-412	-485	-392	-107	-22	442	615	450	476	635	646	321		
乳牛・去勢	B4	H13	1,097	1,097	1,364	1,364	1,364	1,364	1,364	1,364	1,364	1,364	1,364	1,364	1,364	
		H14	554	554	554	554	554	554	554	554	554	554	554	554	554	
		増減	0	-543	0	0	-4	0	0	0	0	0	0	863	0	
	B3	H13	926	929	898	941	931	854	517	517	517	517	517	517	517	
		H14	391	427	426	572	651	807	815	861	705	541	657	660	562	
		増減	-535	-502	-472	-369	-280	-47	298	861	705	301	455	506	12	
B2	H13	771	748	737	601	714	665	416	416	416	416	416	416	416		
	H14	283	323	316	441	512	656	692	763	510	414	566	509	487		
	増減	-488	-425	-421	-160	-202	-9	276	763	418	279	402	387	173		

(営業1課長 加藤 強)

## 丸森町町営放牧場の概況

## 「通年預託による放牧育成の実施」

## 丸森町町営放牧場

丸森町町営放牧場は、昭和46年に丸森町が設置し、町内の酪農家で組織する農事組合法人丸森町酪農振興組合（事務局 丸森町役場農政課内）が委託を受けて管理運営してまいりました。



＜若令牛飼育舎とパドック内の預託牛＞

当放牧場は、福島県境の筆甫地区南山地内にあり、標高450メートルから620メートルの中山間地に位置しております。放牧草地は平均傾斜8度あり総面積は65.6ヘクタール、37牧区となっております。

当町では、設置の目的として酪農家の搾乳用素牛を放牧することにより優良基礎牛を育成し、預託酪農家の労力軽減等経営コストの低減を図り、経営規模の拡大と経営の安定合理化を目指しております。

設置当初は、4月下旬から10月末までの夏期預託制のもと87頭の放牧育成で始まり、順調な経過をたどるなか町外からの預託も受け入れるなど、その後草地造成を行い最大能力170頭の規模まで拡大してまいりました。

平成2年度には丸森町和牛改良組合の要望の元、不受胎牛や育成用の繁殖和牛の放牧も実施し、現在に至っております。

その後の酪農経営の発展と規模拡大の中、若齢牛の早期委託放牧による一層の経営合理化と労働力配分の見直し、優良資質牛の自家育成にかかる育成費の削減による更なるコストの低減と外部導入による衛生リスクの回避を追求し、関係機関の指導の下、平成13年度より、一冬二夏預託育成の通年預託制度を実施し、最大許容能力220頭規模としました。

これらを4群に編成して管理し、人工授精を施し

秋に退牧いたします。

平成14年度の実績から通年預託牛からの移行牛の発育が夏期預託牛より良好な上、D.Gで200グラムほど大きいことから、今後通年預託への要望が高まる中、より一層の優良牛の育成を目指して参りたいと思います。

＜表1.平成14年度放牧育成実績＞

区分	畜種	頭数	期間増体量	D.G
夏期牛	乳牛	126頭	98kg	488g
	和牛	10頭	21kg	104g
通年牛	乳牛	60頭	139kg	707g

＜表2.預託期間および頭数＞

預託期間		容認頭数
夏期預託	4月下旬～10月末 (通年からの移行牛含む)	150頭
通年預託	春期入牧 5月15日～翌年4月30日	35頭
	秋期入牧 9月15日～翌年4月30日	35頭

＜表3.預託区分および使用料金＞

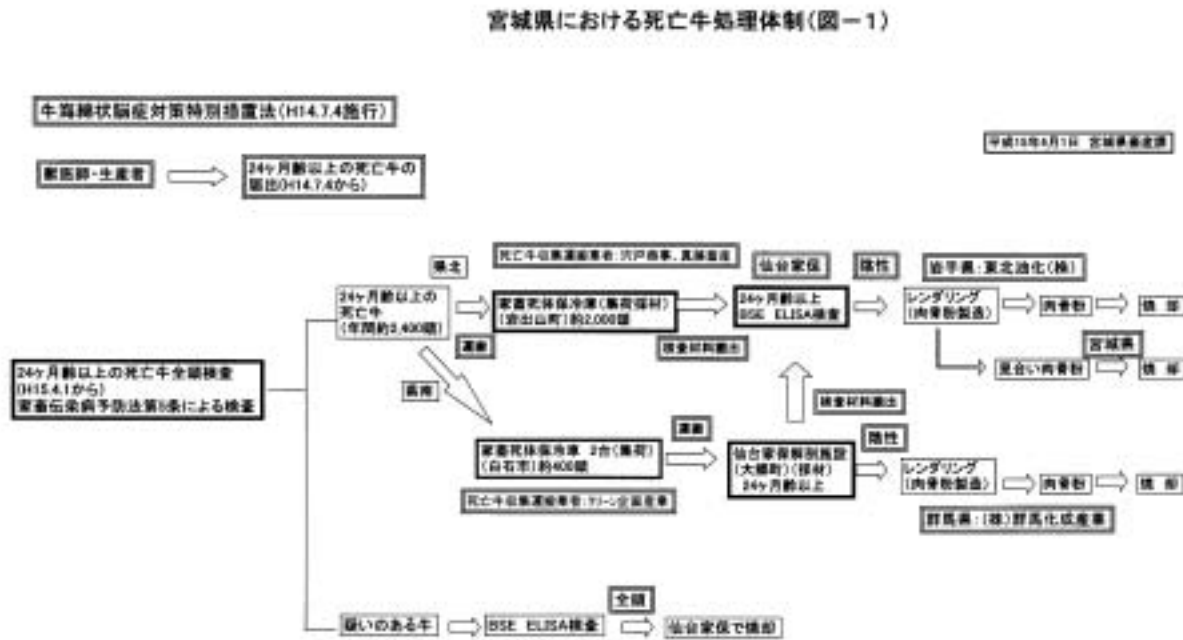
預託区分		町内者	町外者
夏期預託	生後6ヶ月以上18ヶ月未満の乳用牛および肉用牛	300円	360円
	生後18ヶ月以上の乳用牛および肉用牛	360円	410円
通年預託	生後3ヶ月以上6ヶ月未満の乳用牛および肉用牛	430円	490円

(丸森町町営放牧場長 大槻 謙喜)

## 24 ヶ月齢以上の死亡牛検査が始まりました！

宮城県畜産課

### 1 宮城県における死亡牛検査体制について ( 図 - 1 )



BSE 検査については、平成 14 年 7 月 4 日に BSE 対策特別措置法が施行され、宮城県においても死亡牛検査処理体制の整備が完了し、平成 15 年 4 月 1 日から検査が始まりました。

県内における 24 ヶ月齢以上の年間死亡頭数は約 2,400 頭と予想されます。

現在、県内 2 ヶ所で死亡牛の脳延髄部の採材が行われています。

一つは岩出山町に設置してある宮城県死亡獣畜取扱施設で約 2,000 頭分を採材し、もう一つは特殊冷凍運搬車により約 400 頭分を集荷し、大郷町にある仙台家畜保健衛生所の解剖施設で採材を行っています。採材された材料は仙台家畜保健衛生所で BSE 検査を行います。

検査結果が陰性のものは、現在、岩手県の東北油化(株)および群馬県の(株)群馬化成産業へ搬出され肉骨粉として焼却されます。陽性のものは、家保で焼却します。

本県ではレンダリングの適正処理や検査体制の施設整備の観点から、24 ヶ月齢以上の死亡牛検査については、収集運搬、牛個体確認、BSE 検査、レンダリング(化製処理)適正処理の最終確認までの一連の流れを正確に把握するために、収集運搬業者とレンダリング施設を特定し、本県独自の一体的システムとして構築しております。

BSE 検査手数料は、一頭当たり 4,500 円となっておりますが、本県の検査体制システムの場合、国の指定助成事業により実質負担はありません。さらに、輸送促進費として、(社)宮城県畜産協会より一頭当たり 4,000 円の助成がでます。

### 2 死亡牛検査処理体制整備に係わる宮城県の補助

項 目	補 助 金	事 業 主 体
・ 特殊冷凍運搬車 2 台	3 千万円 (国庫 1/2)	(社)宮城県畜産協会
・ 家畜死体保冷库改築 (宮城県死亡獣畜取扱施設)	1 千万円	(社)宮城県畜産協会
・ 死亡牛専用ライン整備	1 億 2 千 6 百万円	東北化製事業協同組合 (東北油化(株))

( 家 畜 改 良 衛 生 班 齋 藤 裕 )

## 平成14年度家畜共済事業実績について

NOSA宮城

平成14年度の家畜共済事業の引受並びに事故実績を御報告いたします。

## 1. 引受関係(表1)

引受頭数は合計で144,813頭となり、対前年伸長率103%の伸びとなり、前年対比で4,371頭の増頭となった。これは、中家畜(種豚・肉豚)の3,829頭増加の関係である。

共済金額合計では205億5,183万円となり、前年対比で2億7,424万円の減少となった。この原因は平成13年に発生したBSEの影響による畜産農家の経済的な逼迫と廃業による農家戸数の減少が考えられる。

(表1)平成14年度家畜共済引受状況(3月末現在)

	推進目標			平成14年度			平成13年度			増減			目標達成率		
	頭数 (頭)	共済金額 (千円)	一頭平均 (千円)	頭数 (頭)	共済金額 (円)	一頭平均 (千円)	頭数 (頭)	共済金額 (円)	一頭平均 (千円)	頭数 (頭)	共済金額 (円)	一頭平均 (千円)	頭数 (%)	共済金額 (%)	一頭平均 (%)
乳牛の雄	24,299	4,064,472	167	23,872	3,638,768,270	152	23,438	3,607,925,841	154	434	30,842,429	-2	98.2	89.5	90.9
(成乳牛)				21,905	3,533,496,132	161	21,486	3,506,721,642	163	419	26,774,490	-2			
(育成乳牛)				1,967	105,272,138	54	1,952	101,204,199	52	15	4,067,939	2			
肥育牛	30,401	5,589,159	184	29,617	5,076,312,505	171	29,349	5,086,277,079	173	268	-9,964,574	-2	97.4	90.8	93.0
特定肉用牛等	77,256	13,164,097	170	75,090	11,606,438,309	155	75,251	11,954,573,364	159	-161	-348,135,055	-4	97.2	88.2	91.0
(親牛)				44,259	9,869,741,126	223	43,548	10,158,695,564	233	711	-288,954,438	-10			
(胎児)				30,831	1,736,697,183	56	31,703	1,795,877,800	57	-872	-59,180,617	-1			
肉用種種雄牛				4	2,520,000	630	1	640,000	640	3	1,880,000	-10			
一般馬	52	15,850	305	43	16,380,000	381	45	17,575,000	391	-2	-1,195,000	-10	82.7	103.3	125.0
大家畜計	132,008	22,833,578	173	128,626	20,340,419,084	158	128,084	20,666,991,284	161	542	-326,572,200	-3	97.4	89.1	91.3
種豚	1,973	115,327	58	2,077	121,267,000	58	1,893	90,504,000	48	184	30,763,000	10	105.3	105.2	99.2
肉豚	11,665	88,520	8	14,110	90,146,345	6	10,465	68,584,000	7	3,645	21,562,345	-1	121.0	101.8	79.1
中家畜計	13,638	203,847	15	16,187	211,413,345	13	12,358	159,088,000	13	3,829	52,325,345	0	118.7	103.7	87.0
合計	145,646	23,037,425	158	144,813	20,551,832,429	142	140,442	20,826,079,284	148	4,371	-274,246,855	-6	99.4	89.2	89.8

## 2. 事故関係

死産事故(表2)では損害防止に各組合、診療センターが取り組んだが平成13年発生したBSEの影響による屠場搬入の問題などがあり、全畜種合計で7,433頭と前年対比で550頭増加、支払共済金は7億9,953万円となり前年を7,068万円上回る支払となった。特に乳牛の雌で399頭、支払共済金で6,697万円と増加が著しかった。

(表2)平成14年度家畜共済事故状況(3月末実績)

	平成14年度					平成13年度					増減				
	死亡	廃用	合計	支払共済金	請求保険金	死亡	廃用	合計	支払共済金	請求保険金	死亡	廃用	合計	支払共済金	請求保険金
乳牛の雌	1,913	757	2,670	431,551,760	345,240,818	1,476	795	2,271	364,580,507	291,663,780	437	-38	399	66,971,253	53,577,038
(成乳牛)	1,891	752	2,643	429,448,997	343,558,615	1,462	791	2,253	363,516,520	290,812,597	429	-39	390	65,932,477	52,746,018
(育成乳牛)	22	5	27	2,102,763	1,682,203	14	4	18	1,063,987	851,183	8	1	9	1,038,776	831,020
肥育牛	490	405	895	141,953,645	113,562,613	525	457	982	158,071,040	126,456,528	-35	-52	-87	-16,117,395	-12,893,915
特定肉用牛等	1,712	176	1,888	204,167,431	163,333,573	1,622	153	1,775	187,428,107	149,942,168	90	23	113	16,739,324	13,391,405
(胎児・出生以外)	447	175	622	129,960,189	103,968,023	407	148	555	115,223,276	92,178,513	40	27	67	14,736,913	11,789,510
(胎児・出生子牛)	1,265	1	1,266	74,207,242	59,365,550	1,215	5	1,220	72,204,831	57,763,655	50	-4	46	2,002,411	1,601,895
一般馬	2	4	6	1,675,121	1,340,096	2	3	5	2,518,881	2,015,104	0	1	1	-843,760	-675,008
肉用種種雄牛											0	0	0	0	0
種豚	130	60	190	10,157,233	8,125,725	99	68	167	7,755,958	6,204,713	31	-8	23	2,401,275	1,921,012
特定包括肉豚	1,784		1,784	10,025,503	8,019,904	1,683	0	1,683	8,495,742	6,795,868	101	0	101	1,529,761	1,224,036
合計	6,031	1,402	7,433	799,530,693	639,622,729	5,407	1,476	6,883	728,850,235	583,078,161	624	-74	550	70,680,458	56,544,568

しかしながら、(表3)に示すとおり、死産を占める疾病は乳牛では心不全、ダウナー症候群、関節炎が圧倒的に多く死産全体の46%を占め、その中でも心不全は20%と特に高かった。肥育牛は心不全、第四胃左方変位、肺炎が多く47%を占める結果となった。特定肉用牛では胎児異常34%と依然として高く、損害防止の取組が今後の課題である。

(表3) 家畜主要疾病発生状況(平成14年度 - 死産)

乳牛の雌 (単位:頭%)

病名	H14	H13	対比	県南	宮城中央	亘理名取	六の国	大崎	栗原	迫地方	石巻地方
心不全	539	458	117.7%	104	44	8	142	47	71	82	41
ダウナー症候群	364	277	131.4%	91	33	10	66	41	43	46	34
関節炎	315	314	100.3%	141	49	15	38	8	11	26	27
急性乳房炎	280	245	114.3%	111	26	14	42	9	20	41	17
腰痛	157	144	109.0%	17	11	1	44	19	18	31	16
その他	1,015	833	121.8%	274	126	41	202	59	105	141	67
計	2,670	2,271	117.6%	738	289	89	534	183	268	367	202

特定肉用牛等(胎児・出生子牛除く) (単位:頭%)

病名	H14	H13	対比	県南	宮城中央	亘理名取	六の国	大崎	栗原	迫地方	石巻地方
心不全	152	154	98.7%	13	5	1	24	28	32	45	4
脂肪壊死症	74	50	148.0%	5	13	2	12	2	11	21	8
肺炎	51	43	118.6%	2	2		4	8	8	25	2
腰痛	45	44	102.3%	4			8	9	8	14	2
腸炎	41	28	146.4%	3	1		6	5	13	12	1
その他	444	236	188.1%	32	66	15	-4	42	-5	224	74
計	807	555	145.4%	59	87	18	50	94	67	341	91

肥育牛 (単位:頭%)

病名	H14	H13	対比	県南	宮城中央	亘理名取	六の国	大崎	栗原	迫地方	石巻地方
心不全	226	232	102.7%	38	8	6	31	28	18	85	12
第四胃左方変位	96	76	79.2%	6	4				1	76	9
肺炎	94	99	105.3%	23	8	1	4	9	8	35	6
肝炎	62	73	117.7%	2	6	3	1	4	2	42	2
急性誇張症	52	91	175.0%	9	11		5	7	5	11	4
その他	365	411	88.8%	69	50	8	9	46	33	92	58
計	895	982	91.1%	147	87	18	50	94	67	341	91

特定肉用牛等(胎児・出生子牛) (単位:頭%)

病名	H14	H13	対比	県南	宮城中央	亘理名取	六の国	大崎	栗原	迫地方	石巻地方
胎児異常	433	439	98.6%	41	22	4	81	71	68	119	27
子牛虚弱症候群	238	205	116.1%	26	8	4	50	27	58	53	12
腸炎	198	170	116.5%	17	1		32	22	40	66	20
心不全	137	138	99.3%	10	5	3	13	13	34	45	14
胎児の新生児疾患	72	105	68.6%	2	4		11	23	4	24	4
その他	188	163	115.3%	16	7	1	29	38	22	62	13
計	1,266	1,220	103.8%	112	47	12	216	194	226	369	90

病傷事故(表4)は肥育牛で1,332件、乳牛の雌で前年対比530件増加、特定肉用牛等で591件の増加し全畜種で増加を示した。全畜種合計で2,469件増加し、支払共済金では前年度を4,843万円上回った。主要疾病名は(表5)のとおりであり、乳牛の雌では乳房炎、繁殖障害、特定肉用牛等では繁殖障害、子牛の腸炎、肥育牛では呼吸器疾患が多く経済的損失が甚大であることから、乳牛では家畜群疾病情報分析管理事業(KGK)を活用し、多頭経営に即した群管理指導、繁殖巡回指導を行うとともに併せて周産期疾病予防に取組んでまいりたい。また、肥育牛では呼吸器性疾患予防、子牛では下痢予防に家畜事故対策協議会を中心として取組んでまいりたい。

(表4) 平成14年度家畜共済事故状況(3月末実績)

(単位:件%)

	平成14年度					平成13年度					増減				
	件数	支払共済金	請求保険金	ほてん金	技術給付金	件数	支払共済金	請求保険金	ほてん金	技術給付金	件数	支払共済金	請求保険金	ほてん金	技術給付金
乳牛の雌	18,533	326,530,982	97,415,373	128,837,671	75,894,136	18,003	312,650,710	92,771,294	120,007,337	76,679,289	530	13,880,272	4,644,079	8,830,334	-785,153
(成乳牛)	17,949	320,780,642	95,793,231	126,746,603	74,262,540	17,430	307,335,630	91,217,018	117,963,889	75,350,501	519	13,445,012	4,576,213	8,782,714	-1,087,961
(育成乳牛)	584	5,750,340	1,622,142	2,091,068	1,631,596	573	5,315,080	1,554,276	2,043,448	1,328,788	11	435,260	67,866	47,620	302,808
肥育牛	10,555	122,126,746	41,277,810	44,388,151	26,141,345	9,223	106,541,764	36,030,828	40,538,093	20,965,144	1,332	15,584,982	5,246,982	3,850,058	5,176,201
特定肉用牛等	31,888	362,026,706	90,522,403	167,745,873	81,127,887	31,297	343,279,914	86,639,477	161,275,854	73,704,772	591	18,746,792	3,882,926	6,470,019	7,423,115
(胎児・出生子以外)	20,173	200,422,065	52,203,611	95,065,660	40,101,934	20,255	196,982,304	51,980,677	94,870,249	37,136,250	-82	3,439,761	222,934	195,411	2,965,684
(胎児・出生子)	11,715	161,604,641	38,318,792	72,680,213	41,025,953	11,042	146,297,610	34,658,800	66,405,605	36,568,522	673	15,307,031	3,659,992	6,274,608	4,457,431
一般馬	35	334,350	103,390	132,736	72,378	25	254,510	68,122	99,143	70,215	10	79,840	35,268	33,593	2,163
肉用種雄牛											0	0	0	0	0
種豚	270	1,633,040	266,336	157,300	1,142,820	264	1,495,470	269,151	167,692	991,340	6	137,570	-2,815	-10,392	151,480
特定包括豚											0	0	0	0	0
合計	61,281	812,651,824	229,585,312	341,261,731	184,378,566	58,812	764,222,368	215,778,872	322,088,119	172,410,760	2,469	48,429,456	13,806,440	19,173,612	11,967,806

(表5) 家畜主要疾病発生状況(平成14年度 - 病傷)

乳牛の雌 (単位:頭%)

病名	H14	H13	対比	県南	宮城中央	亘理名取	六の国	大崎	栗原	迫地方	石巻地方
急性乳房炎	3,108	3,083	100.8%	1,096	242	211	409	262	248	492	148
黄体遷移	1,857	2,543	73.0%	626	293	146	335	130	55	153	119
卵巣静止	1,458	886	164.6%	139	49	201	253	58	191	130	36
卵巣嚢腫	1,368	1,433	95.5%	450	49	28	202	148	185	217	89
ケトosis	963	968	99.5%	225	141	84	143	100	76	92	102
その他	9,779	9,090	107.6%	2,762	893	347	1,665	921	989	1,568	634
計	18,533	18,003	102.9%	5,298	2,068	1,017	3,007	1,619	1,744	2,652	1,128

特定肉用牛等(胎児・出生子牛除く) (単位:頭%)

病名	H14	H13	対比	県南	宮城中央	亘理名取	六の国	大崎	栗原	迫地方	石巻地方
卵巣静止	3,663	3,877	94.5%	300	219	34	449	402	1,185	918	156
黄体遷移	3,107	3,141	98.9%	510	288	48	500	402	413	630	316
腸炎	2,081	1,749	119.0%	184	110	14	445	193	398	587	150
鈍性発情	1,733	1,638	105.8%	311	34	15	292	125	134	755	67
卵巣嚢腫	1,552	1,719	90.3%	193	33	19	298	233	307	376	93
その他	8,037	8,131	98.8%	683	340	74	1,372	1,107	1,182	2,700	579
計	20,173	20,255	99.6%	2,181	1,024	204	3,356	2,462	3,619	5,966	1,361

肥育牛 (単位:頭%)

病名	H14	H13	対比	県南	宮城中央	亘理名取	六の国	大崎	栗原	迫地方	石巻地方
気管支炎	3,877	3,230	120.0%	348	248	9	15	319	133	2,420	385
肝炎	1,151	1,105	104.2%	37	31	5	14	180	54	740	90
腸炎	834	669	124.7%	148	66	12	20	114	45	279	150
肺炎	797	775	102.8%	112	15	11	34	63	59	433	70
ビタミン欠乏症	788	343	229.7%	17	6	8	13	419	12	307	6
その他	3,108	3,101	100.2%	284	208	55	99	430	227	1,474	331
計	10,555	9,223	114.4%	946	574	100	195	1,525	530	5,653	1,032

特定肉用牛等(胎児・出生子牛) (単位:頭%)

病名	H14	H13	対比	県南	宮城中央	亘理名取	六の国	大崎	栗原	迫地方	石巻地方
腸炎	7,444	6,990	106.5%	561	258	25	1,262	1,001	1,625	2,312	400
気管支炎	973	896	108.6%	55	43	2	133	152	108	435	45
胃腸炎	971	772	125.8%	43	101	3	131	253	76	338	26
子牛虚弱症候群	661	684	96.6%	76	45	10	84	89	136	197	24
肺炎	478	434	110.1%	43	26	3	111	65	46	139	45
その他	1,188	1,266	93.8%	77	58	12	283	164	159	358	67
計	11,715	11,042	106.1%	855	531	55	2,004	1,724	2,160	3,779	607

(家畜部次長 武藤 昌文)

## 平成 14 年度生乳需給状況及び平成 15 年度生乳需給計画について

東北生乳販連宮城支所  
みやぎの酪農農業協同組合

平成 14 年度の全国の総受託乳量は、7,989,688 トン（対前年比 101.3 %）で前年を 1.3 % 上回る結果となりました。全国各地域の生産状況については、北海道は 3,679,873 トン（対前年比 103.6 %）で前年を上回り、都府県については 4,309,815 トン（対前年比 99.4 %）で前年を下回りました。北海道は増産基調が続いていますが、都府県は乳牛の飼養頭数や B S E 問題等による個体乳量の伸びの低迷などにより、減少基調が依然続いています。

本県の平成 14 年度生乳生産実績につきましては、計画生産目標 166,365 トンに対し、受託実績乳量は 159,557 トン（対前年比 98.2 %）で前年を 1.8 % 下回りました。

## 平成 14 年度生乳計画生産達成状況

( 単位： ・ % )

	受託乳量	前年比	進度率	未達・超過	計画乳量
みやぎの酪農 全農宮城 宮城酪農	86,330	97.1	94.6	- 4,978	91,309
	27,567	103.1	100.6	175	27,392
	45,659	98.2	95.8	- 2,004	47,664
宮城県合計	159,557	98.2	95.1	- 6,807	166,365

また、東北地域の用途別販売は、飲用牛乳向け、はっ酵乳等向けが生産使用率の高まりやヨーグルトの花粉症への効能が TV で紹介されたこともあり、2.3 %、23.9 % と前年を上回りましたが、加工向け等については消費が依然低調であることや、飲用需要の堅調等を反映して前年を大幅に下回る結果となりました。

## 平成 14 年度用途別販売実績

( 単位： ・ % )

用途別	東 北		全 国	
	販売乳量	前年比	販売乳量	前年比
飲用牛乳向け	583,408	102.3	4,473,380	102.9
はっ酵乳等向け	57,898	123.9	379,740	115.2
加工向け	68,495	71.1	2,046,823	98.0
生クリーム向け	29,358	97.3	806,207	98.2
チーズ向け	4,217	87.0	283,441	93.1
全乳捕育	87	83.2	96	78.3
合計	743,463	99.3	7,989,688	101.3

平成 15 年度生乳需給計画については、まだ 15 年度の県別生乳計画生産目標数量が確定しておりませんが、本県の希望数量として 164,410 トン（対前年実績比 103.0 %）を計画しております。

今後、平成 15 年度の未達ペナルティー、並びに 15 年度の全国調整枠の数量が確定し、最終目標数量が決定しだい、各会員に配分する予定になっております。

また、これから夏場に向け、乳業各社との取引において、衛生管理がたいへん重要になってきますので、暑熱対策や乳質事故防止には万全を期して下さるようお願い申し上げます。

なお、酪農経営基盤の維持拡大を図る上からも、本年度の目標数量の達成については、昨年に引き続き、更なる御協力をお願い申し上げます。

( 販売課長代理 菅原 久義 )



< 畜試便り >

## 牛・乳房炎治療薬の開発

宮城県畜産試験場

「牛の乳房炎がなかなか治らない」、「治ってもまた再発してしまった」、あるいは、「再発はしないが体細胞数が高い」等、昔から乳房炎は酪農家を悩ませる病気の筆頭ともいえる存在です。牛乳は食品であり、食品としての安全性を確保するため、乳房炎の治療には、抗生剤の投与方法、使用期間等、様々な制約があり、「完全治癒」を困難ならしめていることが理由としてあげられます。

この問題を解決する方法として、東北インテリジェントコスモス構想で設立されたティーセル研究所では、抗生剤療法を補填する、泌乳期及び乾乳期の乳腺それぞれに有効な活性を示す抗炎症剤の開発研究を行っており、泌乳期乳房炎治療への「グリチルリチン」、乾乳期乳房炎の予防・治療への「ラクトフェリン」の応用を検討しています。畜産試験場では、1999 年から現場での採材、臨床応用を中心とした共同研究に参画しています。

### 1 泌乳期乳房炎治療薬：グリチルリチン

グリチルリチンは、人の肝炎治療薬として用いられている甘草（生薬）から抽出した成分で、生体に対し、各種の抗炎症作用を示すことが知られています。

比較的病原性の弱いブドウ球菌（コアグラゼ陰性）感染乳房への投与では、抗生剤の投与と比較して明らかな臨床症状の改善が見られました。また、病原性の強いブドウ球菌（コアグラゼ陽性）感染乳房では、臨床症状の改善は認められたものの、炎症が完全には消失しませんでした。抗生剤との併用により、明らかな改善効果が認められています。抗炎症作用としては、グリチルリチンの投与により投与 2 日目以降からの体細胞数の減少、ヒスタミン濃度の顕著な抑制及び健康な乳腺で高濃度に存在す

る - ラクトアルブミンの有意の上昇が認められています。

2 乾乳期乳房炎の予防・治療薬：ラクトフェリン  
ラクトフェリンは、常乳中に 100 ~ 200  $\mu\text{g} / \text{ml}$  程度含まれ、これまで細菌の鉄利用を阻害することにより、温和で非特異的な抗菌作用を示す乳清蛋白質の一つとして知られており、乾乳期においては、乾乳直後及び分娩前に濃度が低下し、乳房炎に罹りやすくなると言われています。

治療効果として、ブドウ球菌性乳房炎への投与では、体細胞数が約 6 倍、抗菌活性に有用な補体第三成分濃度も約 7 倍に増加しました。このことは、ラクトフェリン投与により白血球の誘導と食菌作用の増強が起こったことを示唆しています。ブドウ球菌は、早期に減少し、その後、低値で推移しました。抗生剤の投与では、いずれも増加せず、菌数も一過性の低下を示しました。また、治癒率は、それぞれ 91.7%、48.3% でした。

予防効果としては、乾乳導入後のラクトフェリン投与分房では、初乳中のブドウ球菌陽性率は 11.8% であり、分娩後 1 週までの発症が認められなかったのに対し、抗生剤投与分房では、陽性率が 58.8%、発症率が 47.1% と明らかに予防効果が優れていました。

以上の結果から、泌乳期乳房炎におけるグリチルリチンの治療効果と乾乳期乳房炎におけるラクトフェリンの治療・予防効果が作用機序とともに明確にされ、乳房炎の完全治癒を期す、画期的な乳房炎治療法として期待されます。ティーセル研究所では、現在、公開特許公報出願中であり、2004 年度を目途に国内で販売が開始されると伺っています。

( 乳牛チーム 木船 厚恭 )

<衛生便り>

## 牛や白鳥の鉛中毒

仙台家畜保健衛生所

鉛はヒトをはじめとして、様々な動物に中毒をおこします。今回は、牛と白鳥の鉛中毒をご紹介します。

牛の鉛中毒は、鉛の含まれたペンキや廃油、おもり等を牛が舐めたり食べたりして発生し、特に子牛に多発します。例えば建物のペンキを塗りなおした後や、壁のペンキが剥がれたところを舐めたりして発生しやすいようです。珍しい例では古い魚網ロープを牛に再利用していたところ鉛中毒が発生した例がありました。この魚網ロープは強化のため中心に鉛が入っており、牛が舐めてしまったようです(このロープは現在製造中止)。症状としては、急性では旋回や痙攣、運動失調などが見られ、実際に子牛が狂ったように走り回ったりする例もあるようです。発生を予防するには、鉛を含む物質を牛が舐めないように注意することが必要です。

白鳥などの水鳥の鉛中毒は、水中に落ちている釣りのおもりや鉛散弾を飲み込んでしまうために起こります。これは、水鳥が餌を胃の中ですりつぶすため小石を飲み込む習性があるからです。急性中毒ではほとんど症状を示さずに死亡し、慢性中毒では緑色下痢便、貧血、翼の麻痺などがみられ、内臓、筋肉ともに萎縮して食物を消化できなくなり、衰弱し死にいたりします。宮城県においても毎年白鳥の鉛中毒が発生し、平成14年度は11羽を鉛中毒またはその疑いが強いと診断しています。水鳥の鉛中毒を減らすために、狩猟で使用する鉛散弾を規制し、スチール弾などの無毒性散弾を使おうとする動きも出ています。私たちも釣りのマナーを守るなど身近なことから気をつけましょう。

(病性鑑定班 竹田百合子)

New face

## みやぎの酪農農業協同組合 福地麻希子



昨年の9月にみやぎの酪農農業協同組合に入りました。福地と申します。

私は指導課の牛乳普及係(宮城県牛乳普及協会)を担当しており、角田市から毎日電車通勤をしています。

栄養士の資格を持っているので、将来はこの資格を生かせる仕事に就きたいと考えていました。以前は食品の栄養分析の仕事をしていたので、全く仕事内容が違う職場について戸惑う事ばかりでした。

宮城県牛乳普及協会では、牛乳・乳製品フェアや料理教室、牛乳・乳製品に関するセミナーや各地方で行なわれる行事に後援、協賛するなど年間を通して普及啓蒙・消費拡大を行なっています。一人でも多くの方々に牛乳・乳製品についての正しい知識を伝え、牛乳・乳製品を効率よく効果的に普及し、消費拡大できるかが懸かっていますので、独自性と魅力のある事業を行なっていかなければならないと考えています。

この仕事について9ヶ月が経とうとしています。未熟な点が多く反省することばかりです。この職場に来てから酪農家の皆様の日々の努力や、私が今まで知らなかった牛乳・乳製品について勉強する事も多く、牛乳・乳製品を普及するにあたって私自身、常に新しい情報に目を向けて学んでいかなければなりませんし、積極的に牛乳・乳製品を日常生活の食事に取り入れ自分の健康管理をしていく事は、私の課題でもあります。これからも自分自身でより多くのことを経験し、知識として積み重ね仕事に生かしたいと考えておりますので今後とも御指導の程、宜しく願いいたします。